

里山の自然と触れ合える 大平野生植物園

里山を再生してつくられた大平野生植物園は、春に「カタクリ観賞会」夏は「ヤマユリ祭」が開催されるなど、季節の山野草観察が楽しめるほか、一年中豊かな自然に触れ合え、町内外問わず多くの方に親しまれている利根町唯一の自然植物園です。

今回は、10年以上にわたって大平野生植物園の保全・整備に努めるボランティア団体「チェンジ・6」と「とねQ」のみなさんをご紹介します。



前列右端 園長の倉本末次さん

大平野生植物園で豊かな自然と触れ合い、里山の魅力を知ってほしい

シリーズ まち・ひと・しごと #34
ボランティア団体 チェンジ・6 とねQ



大平野生植物園で観賞できる山野草の一部をご紹介します。(見頃は目安となります。) 1. 蠟梅(見頃1月) 2. 福寿草(見頃2月) 3. 山桜(見頃4月) 4. アヤメ(見頃5月) 5. キンラン(見頃5月) 6. ギンラン(見頃5月) 7. オカトラノオ(見頃6月) 8. ヤマユリ(見頃7月) 9. オミナエシ(見頃8月) 10. 薬師草(見頃11月)



春は、入り口の山桜が来園者を出迎えてくれます

大平野生植物園に人を呼び戻したい

立春とは名ばかりの厳しい寒さが続く2月上旬。大平野生植物園(以下、植物園)では、3月に開催する「カタクリ観賞会」に向け準備が進められていました。

「新型コロナウイルスの影響で閉塞感が漂う中、ここでカタクリを見て、豊かな自然と触れ合い、癒されて欲しいです。」と話すのは、植物園の整備・管理をするボランティア団体「チェンジ・6」と「とねQ」の皆さん。

植物園は平成9年まで地主の方が整備・運営管理をし、多くの方に親しまれていましたが、閉園後、荒廃した里山となっていました。

「この里山に人を呼び戻したい」との思いから、利根町社会福祉協議会が実施する定年退職者を対象としたボランティア育成講座「リ・スタート」を修了した6期生で「チェンジ・6」を立ち上げ、植物園の再生・維持をテーマに平成21年から復元作業を開始しました。

3年後に9期生(とねQ)、その後も参加者が加わり現在11名で、毎週火曜日午前中に活動をされています。

同じ志を持った仲間と続けていきたい

今後について何うと「自然に包まれた里山の魅力をより多くの方に知ってもらうために、同じ志を持った仲間との作業や植物園の未来について語り合う時間を大切に、子どもから大人まで楽しめ、親しめる環境をこれからもつくってきたいです。

また、隣接する田んぼを使って、地域の皆さんと一緒にお米作りをしたいという思いもあります。活動を継続、拡充させていくためにも、一緒に活動して下さる方が増えるといいですね。

芋煮会や山菜の天ぷらパーティーなどを開催しながら、和気あいあいと活動していますので、興味のある方は気軽に参加してください。」と優しい笑顔で話す倉本さん。

皆さんもボランティアの方が思いを込めて保全・整備する植物園で自然観察をしてみたいかがでしょうか。四季折々の山野草が迎えてくれ、きっと訪れる度に新しい出会いが待っているはずですよ。



球根の植え付けを行うメンバーの皆さん。斜面での作業はテクニックも必要なんだそうです

園長を務める倉本末次さんは「メンバーのほとんどが、元会社員で屋外での作業は素人でした。メンバーそれぞれが技術を独学で学び、アイデアを出し合い、試行錯誤しながら、密林と化した里山の孟宗竹の伐採作業や球根の植え付け、遊歩道の敷設などを行い、長い年月をかけてつくりあげてきました。」

その結果、一年中、豊かな自然に触れ合える場に再生することができました。」と話してくださいました。

ボランティアさんの知恵と努力が、多くの方に親しまれ、自然と触れ合える憩いの場をつくりだしているようです。

植物園では「カタクリ観賞会」や「ヤマユリ祭」を開催するなど、町内外問わず、多くの来園者を楽しませています。作業に携わる皆さんにとって、植物園にたくさんの方が来てくれることは、励みであり活動の原動力となっているそうです。



(左) 遊歩道に掛かる竹を伐採する石田雄八郎さん (右) 伐採した竹で、遊歩道の柵をつくる引場永光さん



カタクリ観賞会のご案内

カタクリ観賞会を開催します。皆さまのご来場お待ちしております。

- ▶開催日 令和3年3月13日(土)～3月21日(日)
- ▶時間 午前9時00分～午後4時00分
- ▶場所 利根町大平 447 (大平野生植物園)
- ▶問い合わせ先 倉本 末次 ☎0297-68-8458 080-3174-8458



満開時には約600株のカタクリを楽しむことができます